

## 第 2 回 世田谷区令和元年台風第 19 号に伴う浸水被害検証委員会 議事要旨

日時：令和 2 年 2 月 18 日（火曜日） 9 時 30 分から 12 時

場所：世田谷区役所 二子玉川庁舎 玉川区民会館 集会室 B

議事要旨：

## 【初動対応（樋門・樋管操作等）】

（委員）

- ・新玉川排水樋管について、フラップゲートによる自動開閉であることが分かるような表現にすること。
- ・台風当日の状況として、新玉川排水樋管が全閉になっていたことを記録でも確認すること。

（委員）

- ・玉川排水樋管の内外水位について、観測地点を確認すること。玉川排水樋管の内水位と谷沢川の玉川樋管水位局との水位差があるのはなぜか検証すること。

## 【浸水被害発生のメカニズム（中間報告）】

<上野毛・野毛地区>

（委員）

- ・地形による浸水範囲について、住宅は考慮されているのか。

（事務局）

- ・住宅は考慮していない。実際は、地階の部屋や機械式地下駐車場等に入り込んだ水量もあると考えている。

（委員）

- ・概算流入雨量について、流出係数が下水道計画と乖離がある。

（委員）

- ・浸水要因については、根拠となるデータに基づいて整理する必要がある。要因ごとで量的な影響度が異なっている。
- ・詳細な検証ができていない中で浸水要因を断定するのは危険でないか。

（委員）

- ・丸子川にある明神池余水吐は、通常は開けておくのか。運用方法を見直した方が良い。

（事務局）

- ・丸子川が大田区まで繋がっていた際に、大田区付近で浸水がたびたび発生していたため、大田区側の丸子川の水位低減のために下野毛雨水幹線につなげて多摩川へ排出するために設けられていると思われる。
- ・今後の運用方法は検討課題としていきたい。

(委員)

- ・浸水範囲について、地形状況だけでは実際と異なる可能性があるため、現地確認の情報や災証明の情報等も反映させた方が良い。
- ・何時にどの水位まで上がっていたかなど、時系列の浸水状況の情報を集めた方が良い。

<玉堤地区>

(委員)

- ・上沼部排水樋門における17時から19時までのポンプ車による排水は、排水容量の情報を提供するため、合わせて整理した方が良い。

(委員)

- ・玉堤地区については、図面に表示された谷沢川からの水の流れだけでないので表現を工夫すること。
- ・浸水深について、玉堤地区の上沼部にある在来水路付近では1mから1.5mの浸水深であった。玉堤一丁目16番にあるコンビニのカメラ映像では0.6mの浸水深であった。この他にも5箇所から6箇所の情報があるため、合わせて整理した方が良い。

(委員)

- ・概算流入雨量の試算について、試算の条件と浸水シミュレーションの条件を整合させないと数値に乖離が生じた際、その説明が難しくなる。
- ・流入雨量については、流域面積による試算だけではなく、河川水位の情報を活用して試算(流量)した方が実際との乖離が少なくなるのではないか。

(委員)

- ・浸水の発生と水門の操作のイメージについて、マンホールから噴き出しているのも、丸子川からの越水だけでなく、マンホールもイメージに追加した方が良い。

(委員)

- ・検証委員会の資料については、事実はできるだけ記載した方がよく、浸水発生場所やポンプ排水の状況も可能な限り追記すること。

【中間報告書(案)】

(委員)

- ・水門閉鎖前から浸水が発生しており、多摩川水位上昇により排水が困難になったことも要因としてはある。

(委員)

- ・上沼部雨水幹線については、現在整備中のため、在来水路という表現に修正すること。

(事務局)

- ・上沼部排水区は、試算上は丸子川から北側の範囲を含めていないため、図面の着色も除いた形とする。

(委員)

- ・浸水イメージの図(数値)は、詳細な検証を行っていない中では数字が独り歩きし、区民の誤解を招く危険性がある。

(事務局)

- ・区民に対しては、2月に中間報告、6月に最終報告としており、区として中間報告において浸水のボリューム感は提示したい。

(委員)

- ・中間報告における浸水発生要因について、浸水シミュレーションを行っていない現時点では「特定」という表現は見直すべきである。

(委員)

- ・大田区田園調布四丁目にあるテニスコート付近で、丸子川が越水している情報があるため、確認すること。

(委員)

- ・区民は谷沢川の越水より水門を閉めていないことが要因と考えており、最終報告を6月より前に実施できないか。

(事務局)

- ・浸水シミュレーションは、コンサルに委託しないと困難なため、早くても6月までかかるという状況にある。
- ・検証委員会としては3回程度予定しているが、4月以降、最終報告前に実施する可能性もある。

(委員)

- ・浸水の本当の真実を解明するためには、時間を要することから、現時点では仮説に基づいてシミュレーションするしかない。仮説によっては解釈が若干変わる可能性はある。

以 上